

受験  
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

試験会場	採点欄

2024 年度  
第 13 回 会社決算書アナリスト試験  
解 答 用 紙

第 1 問

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

第 2 問

問 1

第 1 問
/20

	20X1 年度	20X2 年度
P 社	0.5 %	%
Q 社	1.1 %	%
分析	a. 20X1 年度を見ると、P 社の全社的な収益性は Q 社よりも優っている。 b. 20X2 年度を見ると、P 社の全社的な収益性は Q 社よりも優っている。 c. 20X1 年度から 20X2 年度にかけて、P 社と Q 社の全社的な収益性はともに改善している。 d. 20X1 年度から 20X2 年度にかけて、P 社と Q 社の全社的な収益性はともに悪化している。	

問 1	/6
-----	----

問 2

		20X1 年度	20X2 年度
P 社	総収益当期純利益率	0.8 %	%
	総資産回転率	0.7 回	回
Q 社	総収益当期純利益率	2.8 %	%
	総資産回転率	0.4 回	回
分析	P 社をみると、( 利益率 ・ 回転率 ) の ( 上昇 ・ 下落 ) が、ROA の変動に、より大きく寄与している。 Q 社をみると、( 利益率 ・ 回転率 ) の ( 上昇 ・ 下落 ) が、ROA の変動に、より大きく寄与している。 小売業の販売スタイルとしてしばしば注目される「薄利多売」(回転率)の視点で、P 社と Q 社を比較すると、( P 社 ・ Q 社 ) は、一部商品に採用していた、この販売スタイルから離れたと推察することが可能である。		

問 2	/14
-----	-----

宅配を希望される方

〒  
住 所

電話番号

問 3

	P 社	Q 社
ROE	%	%
分析	ROE で比較した場合の P 社と Q 社の評価の優劣は、 ROA で両社を比較した場合と ( 変わらない ・ 逆転している )。	
理由		

問 2 / 10

第 3 問

第 2 問

/ 30

問 1

①	②	③
%	%	%
④	⑤	⑥
%	%	%

問 1 / 12

問 2

a	b	c	d	e	f

問 2 / 12

第 4 問

第 3 問

/ 24

問 1

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
倍	倍	倍	倍	倍	倍	%	%	%	%

問 1 / 20

問 2

a	b	c

問 2 / 6

第 4 問

/ 26